

4つの視点で紐解く子どもたちの成長

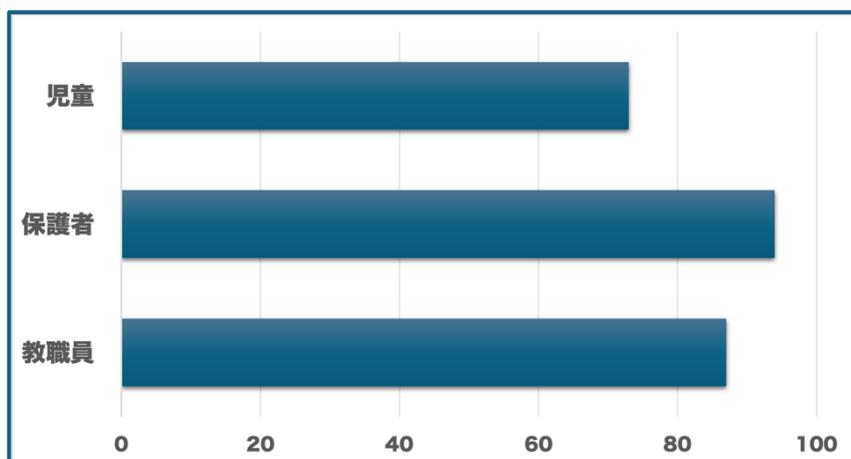
この度は、後期の学校評価アンケートにご協力いただき、心より感謝申し上げます。皆様から寄せられた貴重なご意見を、今後の学校運営に活かしてまいります。このアンケート結果を単なる数値として捉えるのではなく、より深く子どもたちの現状と成長を理解するために、本校の教育目標「未来永笑」に沿った4つの視点から分析しています。

1. 自己存在感の感受
2. 共感的な人間関係の育成
3. 自己決定の場の提供
4. 安全・安心な風土の醸成

これらは、子どもたちが社会を生き抜く力を育む上で欠かせない要素であり、ご家庭でのご理解とご協力をいただき進めていきたいものです。ぜひこれらの視点を意識した対話やサポートをお願いいたします。学校とご家庭が連携し、子どもたちが「未来永笑」できる社会を共に築いていけるよう、今後ともご協力をお願い申し上げます。

	教職員	保護者	子ども
1	児童に、自ら進んで挨拶をしている。	お子さんに 自ら進んで挨拶をしている。	じぶんから すずんで あいさつをしている。
2	児童のよさを積極的に見つけ、認めたり、ほめたりしている。	お子さんのよさを認めたり、ほめたりするようにしている。	じぶんの よいところが いえる。
3	児童に、忘れ物なく学習の準備ができるように働きかけている。	お子さんに、忘れ物なく学習の準備ができるように働きかけている。	わずれものを しないように、がくしゅうのじゅんびを じぶんで している。
4	児童が係や当番の仕事を、自分でできるように働きかけている。	お子さんが、掃除や後片付けが自分でできるように働きかけている。	かかりやどうぼんの しごとを じぶんから することができている。
5	学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている。	お子さんに、学校での出来事や学習の様子を聞いている。	がっこうでの できごとを いえのひとに はなしている。
6	児童がよく分かるように、授業を工夫している。	お子さんは、授業が分かると言っている。	じゅぎょうが よくわかる。
7	児童が人の話を、最後までしっかり聞くよう働きかけている。	お子さんに、人の話をしっかり聞くよう働きかけている。	ひとはなしを さいごまで しっかり きいている。
8	児童に手伝ってもらったときは、「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。	お子さんや、家族に対して「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。	かんしゃの きもちとして、「ありがとう」や「ありがとうございませう」をつたえている。
9	児童の思いや困りを聞いたり、相談ののりたりするようにしている。	お子さんの 思いや困りを聞いたり、先生に相談するようにしている。	こまったことがあったら いえのひとや せんせいにはなしたり、そうだんしたりしている。
10	児童が自他を大切にできる学級づくりに取り組んでいる。	お子さんに、自分や友達を大切にするように働きかけている。	じぶんや ともだちを たいせつにしている。
11	児童が授業中、進んで学習するよう働きかけている。	お子さんに、授業中、進んで学習するよう励ましている。	じゅぎょうちゅうは、じぶんから すずんで、がくしゅうしている。
12	児童に、家庭学習の習慣が身に付くよう働きかけている。	お子さんに、家庭学習の習慣が身に付くよう働きかけている。	かていがくしゅうに じぶんから すずんで、とりくんでいる。
13	児童に、読書の習慣が定着するよう働きかけている。	お子さんに、読書の習慣が定着するよう働きかけている。	がっこうや いえで ほんを よくよんでいる。
14	クラスや学年、委員会などの中で、子どもが活躍できる場や認められる場をつくらうとしている。	家の中で、お子さんの役割を決めたり、やりたいことを聞いたりする機会をもっている。	がっこうや いえで じぶんの やくわりが きまっていたり、やりたいことが あったりする。
15	学校の規則の意味がわかったり、クラスでのやくそくについて守ったりすることができるように指導している。	家で「これだけは守ろう」「これだけは大切にする」などのルールや、やくそくを一緒に考えたり、話したりしている。	みんながきもちよくすごせるように がっこうや いえでの るうるを ままろうとしている。
16	学校のタブレットを活用して授業をしたり、家庭学習に活かしたりするように指導している。	学校や家庭学習でのタブレットの使い方について、話を聞いたり、相談ののりたりしている。	タブレットを がっこうや いえで がくしゅうに いかすことができている。
17	学校のタブレットのルールを守ったり、家でのルールを見直したりできるように指導している。	お子さんが、学校のタブレットのルールを守ったり、家でのルールを見直したりして適切に使えるようにしている。	がっこうの たぶれっとの るうるがわかって、まもったりみなおしたりしている。
18	山階南の地域の良さを学べるような教材・単元づくりをしたり、地域の話をしてしている。	家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを話したり、ふれあったりする機会をもっている。	さんかいいなみの ちいきのことが すきである。

自己存在感の感受



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、1・2・3・4・5

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

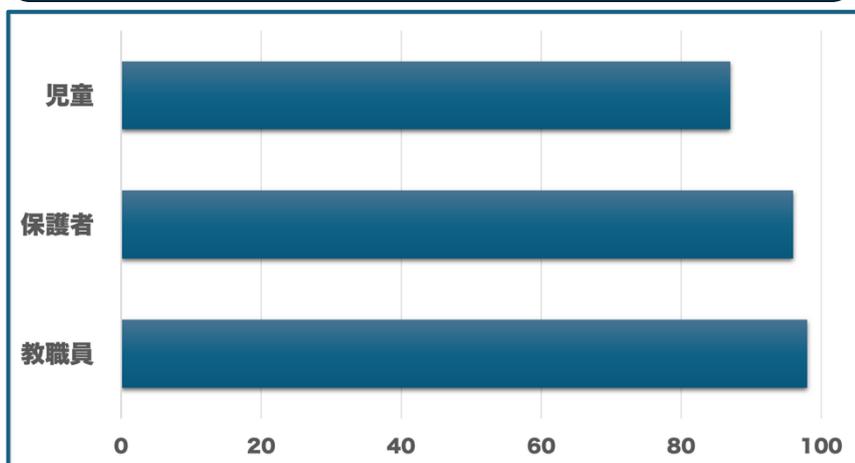
自己存在感の感受とは、「一人ひとりの児童生徒をかけがえのない存在と捉え、個性や独自性を大切にすることです。子どもは、あいさつや身の回りのこと、みんなのための仕事を進んでできるか、大人は、それらができるように支援しているかということです。また、自分の良さや強みがわかったり、自信をもてたりしているかということも関係します。自分の良さや強みは、自分だけでわかるものではなく、友達との学習活動の中で気づいていたり、発揮されていたりするものです。

児童への質問2「じぶんのよいところがいえる」では、肯定的な回答が前期の55%から52%と微減となりました。一方で保護者の方や教職員が、「子どものよさを認めたりほめたりしている」という回答はどちらも95%を超えています。このアンケートを取り始めた令和6年度からこの傾向が続いています。「認めたりほめたりしていることが届いているか」という視点での子どもへの接し方が必要かもしれません。

児童への質問4「かかりやとうばんの仕事をじぶんからすることができている」では、前期に引き続き、この「自己存在感の感受」のセクションの中で児童の肯定的な割合が最も高かった結果が出ました。係や当番の仕事を自分からしようという子どもはとて多いことがわかります。また、その中には全体の状況を見て、さらに自分からできることを探して動くことができる子どももいるようです。保護者の方でも「お子さんが、掃除や片付けが自分でできるように働きかけている」の項目での肯定的な回答が前期より5ポイント増加しています。ご家庭でのお声かけありがとうございます。

児童への質問5「学校での出来事を家の人に話している」という回答では、「子どもに学校での出来事や学習の様子を聞いている」という保護者の方が95%で、「学校での出来事を家の人に話している」という子どもの肯定的な回答は74%（前期：70%）で微増の結果となりました。何かあったときだけではなく、普段から何気ないことも含めて、子どもたちの話を聞くこと、大人側が子どものおもいを引き出すような言葉かけや、姿勢を見せることが大事だと考えています。教職員でも「学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている」の項目が、65%（前期：63%）となっています。ホームページの仕様が令和8年1月から変更になり、更新がしやすくなった面がありますので、今後も学校の様子を適切に伝えることができるようにしていきたいと思います。

共感的な人間関係の育成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、7・8・9・10

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

「共感的な人間関係の育成」とは、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外に築くことです。

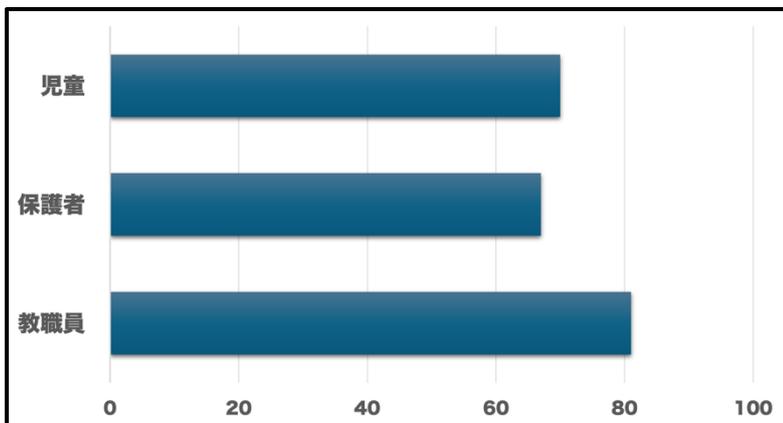
児童への質問7では、「ひとのはなしを さいごまで しっかりきいている」では、前期に引き続き、約9割の子どもたちが肯定的な回答をしていました。人の話を最後まで聞くことの大切さはどの子どもも理解はしているようです。また、保護者の方におきましても94%の方が肯定的な回答で、家庭でもこのことを大事にされていることが分かります。

また、質問8『かんしゃのきもちとして、「ありがとう」や「ありがとうございます」をつたえている』では、感謝の気持ちも伝えることができているという自覚のある児童が9割を超えました。このことについては、保護者の方も教職員も自信をもって声かけをしている結果がうかがえます。学校では、今年度、「おもいやりの木」などの取組を通じて、そのような言葉や行動を増やしていけるよう働きかけてまいりました。今後は、「わかるよ」「それはたいへんだったね」「いっしょにかんがえよう」など、相手の気持ちを想像したり、共感したりする言葉も少しずつ使えるようになるような「共感言葉」もさらに増えるよう取り組んでいきたいです。

児童への質問9「こまったことがあったら いえのひとや せんせいにはなしたり、そうだししたりしている」では、肯定的な回答は71%（前期：71%）でした。昨年度から同様の結果が続いている項目です。学年にもよりますが、高学年になると、教職員や保護者の方への相談が減り、友達や先輩への相談が増えるのかもしれませんが、それも子どもたちの成長の一つと捉えることもできますが、普段から、「相談できる」「相談しやすい」と子どもたちが思えるようにしたいです。相談があった際は、校内でもできる限り共有し、複数体制で相談に乗っていきたいと考えています。

児童への質問10「じぶんやともだちとたいせつにしている」では、児童の肯定的な回答は96%でした。自分や友達を大切にするための言葉や行動は、日常生活のようなリアルな場面だけでなく、スマホやタブレットを介したデジタルな場面でもその姿勢が問われます。特に、デジタル空間でのやりとりについては、大人側からはやりとりが見えにくく、毎年 SNS 内でのやりとりをきっかけにしたトラブルが起きています。SNS ができる機器をもたせているご家庭においては、そのようなところでのコミュニケーションの仕方についても、ぜひご家庭で話題にしてほしいと思います。

自己決定の場の提供



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、11・12・13・14

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

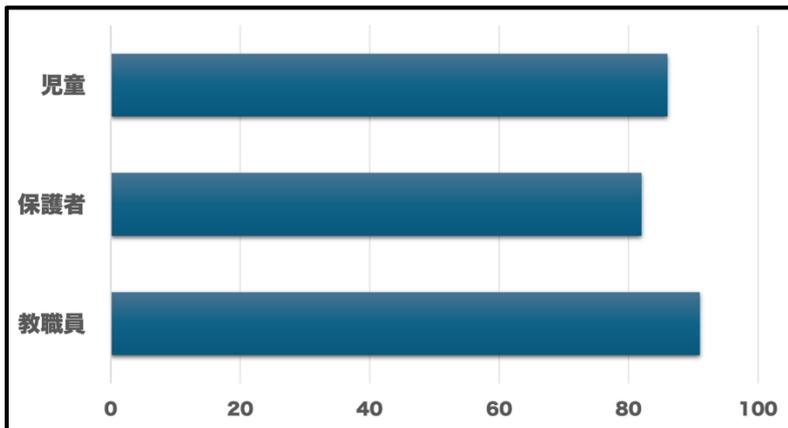
「自己決定の場の提供」とは、自ら考え、選択し、決定し、行動する（発表・制作など）経験が得られる機会を意図的に設定することです。例えば、学校での活動や家庭でのルールについて、子どもたちが意見を出し合い、その意見を尊重して決定する場を設けることがあります。これにより、子どもたちは自分の選択に責任を持ち、自信を持って行動できるようになります。

また、保護者としては、子どもたちが自分で決めることをサポートし、必要に応じてアドバイスを与えることが大切です。これにより、子どもたちは自立心を育み、将来の様々な場面で自分の力で問題を解決できるようになります。

児童への質問 11「じゅぎょうは、じぶんから すすんで、がくしゅうしている」や、質問 12「かていがくしゅうに じぶんから すすんで、とりくんでいる」では、学校での学習や家庭学習についての主体的な態度について聞きました。どちらも肯定的な回答は、前期とほぼ同じ割合で、8割には満たない結果となりました。自主的に取り組む楽しさや具体的な方法については、学校でも発達段階に応じて指導しています。例えば、興味を引き出すために、子どもたちが興味を持てるテーマや達成したいと思えるゴールの活動を設定したり、お互いの活動を共有したりすること、また、成功体験を積ませるために、簡単な課題から取り組ませてクリアすることで達成感を感じさせたりすることです。子どもの意欲を引き出すための工夫は、今後も不断の努力で取り組んでいきたいと考えています。ご家庭でも子どもたちのがんばりに応じて適切に褒めることで、学習に対するモチベーションを高めることができると思いますので、そのようなかわりやお声かけをよろしく願いいたします。

このカテゴリーで、特に低かったのは、児童への質問 13「がっこうや いえで ほんを よくよんでいる」です。肯定的な回答が前期 56%から後期では 49%になり、有意に下がっています。また、この質問に関しては、保護者の方や教職員の肯定的な回答も前期よりも低いものになりました。家庭では、放課後の過ごし方が多様化している中、本を読む時間のみを確保するのは難しいのかもしれませんが、学校では、朝学習や課題が終わった場合などに、読書の時間を取る場合もありますが、デジタルドリルに取り組ませることもあります。また、特に高学年では、図書館の時間を毎週設定することは授業時数の関係で難しい現状もあります。読書量と学力の間には相関関係（因果関係ではありません）があるという結果が、全国学力学習状況調査でも言われていますが、本の楽しさや読書ならではの体験を子どもたちができるよう、学校としても考えていきたいと思っています。

安全・安心な風土の醸成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、15

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

「安全・安心な風土の醸成」とは、お互いの個性や多様性を認め合ったり、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくったりすることです。特に、小学校では、学級や学年で活動することがメインになりますので、その中でのルールや「やくそく」が子どもたちの中で約束されていて、どの子どもも安心して学習できることが大切です。

質問 15 では、「みんながきもちよくすごせるように がっこうや いえでのるうるを まもろうとしている」かを問いました。86%の児童が肯定的な回答をしている（前期：88%）一方で、そうではないと感じる児童も約1割います。学校は集団生活の場ですので、お互いが気持ちのよい「ルール」や「やくそく」を考えることが大切かと思えます。その際、教室には、様々な価値観をもった子どもや様々な背景をもった子どもがいることを考えることが必要になります。したがって、お互いの考えを尊重しつつ、最適な「ルール」や「やくそく」を考えていけたらよいのではと考えています。また、ルールの意図や重要性を十分に理解したり、ルールがなぜ必要なのかについての理解を深めたりできるように指導していきたいと思えます。

それ以外の項目について

質問 18 「さんかいみなみの ちいきのことが すきである」については、86%（前期：89%）の児童が肯定的な回答をしていました。学校では、地域の方々に、朝の交通安全を見守っていただいたり、授業にゲストティーチャーとして参加していただいたりしています。また、教職員も授業の中で、地域の公園や川について取り上げたり、地域のお祭りに参加したりすることで地域と触れ合う機会をもてるように計画しています。昨年12月には、来年度の「総合的な学習の時間」に向けた地域の方とのさらなる連携の仕方について、教職員で話し合いも行いました。授業への協力ということだけでなく、「防災」「減災」という意味でも地域の力（共助）は大切です。そのような物理的なつながりも、心理的なつながりも、どちらも大切にできるように学校でも地域との連携に関する取組を推進していきたいと思えます。